

平成28年度第3回石巻市震災復興推進会議 会議録

日時 平成29年3月21日（火）18時～ 20時15分
場所 石巻市役所4階 庁議室
出席者 【委員】16名（別紙参照）
【オブザーバー】宮城復興局石巻支所、宮城県東部地方振興事務所
【当局】市長、復興担当審議監、復興政策部長、復興政策部次長、
復興事業部長、復興事業部次長、産業部次長、建設部次長、
地域協働課長、基盤整備課長、市街地再開発整備課長、商工課長、
河川港湾室長
【第一吉野会】石森峻会長

4 会議概要

開会あいさつ（会長）

先日、門脇地区の「まちびらき」が行われた。市の復興事業の中で最も難しいものであったが、ようやく形になり、復興を肌で感じられるようになったと思われる。

本日は、前回会議で意見として出た「コミュニティの再生」について、もう少し掘り下げていきたいと思う。また、「南浜津波復興祈念公園」や「かわまち交流拠点整備事業」について報告があるかと思うので、どうぞよろしくお願ひしたい。

（1）議事（報告事項）

ア 主な復興事業の進捗状況について（資料1～3に基づき復興政策課長が説明）

【委員】

P31に複合文化施設と記載があるが、これは文化センターのようなものと考えてよいのか。また、計画どおりに完成する予定なのか。計画どおりに完成するのであれば、宮城県の水産業の中心となっている石巻地方に「全国豊かな海づくり大会」を誘致してはいかかがか。

【復興政策課長】

被災した文化センター及び市民会館に代わる施設を複合的に整備する予定であり、計画に間に合うように整備を進めてまいりたい。

【復興政策部長】

「全国豊かな海づくり大会」については、開催を8月に予定しているため、複合文化施設の会館予定までは間に合わない形、場所も含め、どのような誘致、取り組みができるのか、今後の検討として考えている。

【委員】

複合文化施設整備にかかる委員もやらせてもらっている。開館される平成32年度はこけら落としも含め、様々なことを検討しているが、オリンピックの中に「スポーツ芸術」というものがあり、宮城国体で石巻に誘致を行うことができたが、オリンピックで行う「スポーツ芸術」も誘致できないか検討を進めているところである。石巻をPRできるチャンスであるため、成功させたいと考えている。

(2) 取り組み事例の紹介

ア コミュニティの再生について（資料4に基づき第一吉野会 石森会長が説明）

【委員】

戸数が少なかった町内会に復興住宅の方が大勢来られて大変だと思われるが、再び良いコミュニティを作るためにご苦労されていると感じた。コミュニティの形成には時間がかかることから、焦らず健康に留意されながら頑張ってもらいたい。

【第一吉野会会長】

高齢者が多いことから、復興住宅に入居した直後にお亡くなりになられる方や鍵が開けられなくなる等、高齢者特有のトラブルが多くある。行政委員として、民生委員と協力しながら見回りや近況の報告を伺ったりしている。

【委員】

元気な高齢者もいることから、そういう方に協力をもらいながら、若い方もイベントの際に手伝いを依頼し、コミュニティへ誘い込んでいくこともよいと思う。

【委員】

継続して行っていただき、現在行っているコミュニティ形成が模範となるように頑張ってもらいたい。

【会長】

単純に公営住宅を建設するだけではなく、町内会との連携でコミュニティを作っていくことが重要であると改めて感じた。今後とも良い取り組みを発信して行ってほしい。

(3) 意見交換

ア 石巻南浜津波復興祈念公園について（資料5に基づき 基盤整備課長が説明）

【委員】

デザインは重要であるが、人が集まらないと効果が出ない。駐車場の数について、普段は十分であるが、イベント時に大勢の方が来る時に足りるのか懸念があるため、駐車場の数を教えてほしい。

【基盤整備課長】

駐車場は、資料5のP3に記載のとおり、3か所計画しており、北広場、野球グラウンド側、東側に計画している。駐車台数は、大型バス9台分を含め230～240台程度になる。イベント時は、団地広場等を臨時駐車場にすることを考えている。

【委員】

憩いの場所としてよいと感じる。自然環境にも気を使っているように感じられるが、排水についてはどのように行うのか。

【基盤整備課長】

P3にあるマリーナ付近にポンプ場を設置予定であり、雨水は一旦池に溜め、その後、ポンプで旧北上川に排水する計画となっている。

【委員】

海で仕事をしていることから、排水方法については注視している。池にある程度溜まってからの排水となると、環境への影響は考えられているのか。

【基盤整備課長】

利害関係者の同意を得ながら進めることをしており、漁業関係者から水質の指摘を受けていた。北上川の水位が低い場合は自然流下も可能であるため、定期的に排水を行い、滞留することが無いようにしていきたい。また、既に調査用の池を掘り、モニタリングをしており、めだか等の生物が戻ってきていることから、生物の浄化作用にも期待しながら進めてまいりたい。

【市長】

排水する際に外洋に影響が無い様ように、水質調査を行いながら、自然環境に配慮した対応を考えていきたい。

【副会長】

4年前に公園になりそうだという話があった際、住民を始め、様々な方から相談を受けた。その際に行政に働きかけるべき、自分たちでできることは自分たちで行う、持続可能な公園とするといった三点について話をさせていただいた。その結果がこのような立派な公園になったことについてうれしく思う。

一つだけ懸念があり、旧南浜町の道路をそのまま残した箇所に違和感がある。全体のコンセプトを曲げない程度に直線的な道路を弱めることができればよいのではないかな。

【基盤整備課長】

細かいデザインはまだ時間がかかる状態であるため、現在は骨格的デザインを示させていただいている。高さ等を確認すると、少し高くしなければならないといったこともあるため、道路について既存アスファルトが残るような形にはならないと思う。園路の残し方についても工事の進捗に合わせて検討してまいりたい。

イ かわまち交流拠点整備事業について（資料6に基づき 市街地再開発課長が説明）

【委員】

震災で失った水産業の販路を取り戻せるものと考えており、合わせて街のにぎわいも創造していきたい。最終的には河川堤防が河口まで完成予定であるので、堤防上を散歩やサイクリングなど川と一体となった街づくりを推進していきたい。

【委員】

街中は駐車場がないというイメージがある。駐車に支障が無ければ、街中が行きやすい場所にイメージアップするのではないかと感じた。

車いすやベビーカーなども堤防に上られるようにスロープの設置等の配慮はされているのか。

【商工課長】

生鮮マーケット及び公共施設内にはエレベータの設置も予定していることから、施設内から堤防へ出る形となる。夜間は北広場側から堤防へ上がるような作りとなっている。

【委員】

想定来客数を考えると、特に土日は駐車場が不足するのではないかと、まち全体として考える必要があると思う。利用者の立場を考えると、点在する駐車場を探し回るのは大変であることから、仮の駐車場を含め検討が必要だと思う。

中瀬については、最終的な計画が出る直前で止まっているように見える。背景があることは理解できるが、早く協議できるようにしていただきたい。

【商工課長】

駐車場については周辺の状況を考慮し、台数を算出しているが、土日等の繁忙期に不足することは十分に考えられる。街中ということで整備場所も限られていることから、まずは整備を行い、マンガ館と提携している駐車場との連携や混雑状況を考慮し、必要であれば、整備を検討してまいりたい。

【基盤整備課長】

中瀬公園については、平成27年12月に市民説明会を開催し、平成28年3月に基本計画を公表させていただいており、現在、用地交渉などを行っている。平成29年6月には都市計画決定を予定しており、そこから具体的な用地取得を進めていく。様々な復興事業が完成していく平成32年度に間に合うように進めてまいりたい。

【委員】

公園整備については、提供いただいた地権者が、公園ができてよかったと思えるような整備をしてほしい。交流人口の拡大が中心部だけでなく、半島沿岸部にも人が訪れるような仕組みを作っていただきたい。

【復興政策部長】

現在、広域観光連携として石巻観光DMOを進めており、関係機関と協力し、半島沿岸部へも交流人口が拡大するような仕組みにしていきたい。

【市長】

半島沿岸部の拠点整備については、非常に遅れている状況であり、早急に進めていきたいと考えている。拠点を核として周辺にも人が訪れていただけるようにしていきたいと考えている。半島沿岸部はそれぞれの特徴をもっていることから、それを生かしていきたい。半島沿岸部を巡りながら、石巻の多様性を見て頂けるような観光交流を進めてまいりたい。

【委員】

リ・ボーン・アートフェスティバルを昨年に引き続き今年度も行う予定である。市街に来た方をいかに半島部に連れていけるかということに観光協会としても取り組んでいきたい。また、ツール・ド・東北なども数年開催し、定着しつつあるため、活用して行きたい。

4 その他

平成29年度の予定について（資料7に基づき、阿部復興政策課主幹が説明）
アンケート（資料8に基づき、阿部復興政策課主幹が説明）

その他の意見

【委員】

南浜復興祈念公園に野鳥が来てほしい。実のなる広葉樹などを植えてもよいのではないか。

【基盤整備課長】

震災前と比べ、野鳥も戻ってきているという話もある。実施設計に反映できるように検討していきたい。

5 閉会あいさつ（副会長）

金額も含め、膨大な事業があると感じた。千年に一度の仕事であることから、みんなで良い石巻となるよう頑張っていたきたい。

復興事業が目に見える形となってきたが、自立した市民の方々と協力していかなければ、街は衰退してしまう。市民の意識をどのように高めていくか、戦略を考える必要があるのではないか。